

北野 秋男編集・解題

戦後学力テスト研究資料集

全3巻

近年、教育関係者でない方も、子どもの「学力が低下した」という報道を耳にしたことがあるだろう。教育界では、本当に低下しているかやその根拠も論争されてきたが、日本の、または各都道府県等の学力と表現した時点で、扱われているのは個々人の成績ではなくて、あくまで集団的に集計をした数値である。

学力のこうした問い方は主に戦後初期に始まった。それを論争史、運動史でたどる研究ならなされてきたが、各学力テストの設問やその解説、理念に立ち戻った研究は多くない。また、その根拠となる調査自体の引用も一部にとどまってきた。「ナショナル・テスト」と言われる全国調査は研究されてきたのに対し、

資料なのだ。編者の北野秋男氏はすでに『地方学力テストの歴史 47都道府県の戦後史』（風間書房、二〇二二年）という六五〇頁に

わたる研究書を刊行されている。本資料集はそこに整理・引用された冊子を膨大に掲載したもので、連動した出版となっている。本資料集の独創性は顕著である。収録されたのが「ローカル・テスト」、すなわち都道府県や市町村で行われた調査に関する

解題で強調される本書の学術的な意義は、一現代において全国的に普及・浸透する学力テスト体



B5判・約2000頁・110000円
クロスカルチャー出版
978-4-910672-38-0
TEL. 03-5577-6707

日本の学力テストの「今」と「未来」

「ローカル・テスト」の調査から見えてくるもの

金馬 国晴

（山形県）、学年を通して得点の高い問題と低い問題や学年が進むにつれて得点の進歩度の高いものと低いもの（群馬県）、早生れ遅生れ児童の比較（埼玉県）、調査協力学校を工業型・住宅型・工業住宅型・商業工業住宅型・農業型など九つに分けた分析（神奈川県）などが発見できる。

制が戦後直後から構築された歴史的基盤の上に成り立つものであったこと（一頁）の解明であり、これは「日本の学力テスト体制の革新性・先駆性、ならびに多様性・多元性を確認することでもある」（同）とする。そして、「戦後の学力テストの歴史を知ること、日本の学力テストの『今』と『未来』を探ることでもある」（二頁）と、端的に言う。

解題で整理された各県の特徴が極めて的確なのは、同氏の資料収集、選定、読解、分析の蓄積が

クロスカルチャー出版ニュース 2024.9.30号

北野秋男編集・解題

『戦後学力テスト研究資料集』（全3巻）が『週刊読書人』（2024年9月20日）に掲載されました。

★きたの・あきお 曰

本大学特任教授・教育思想・アメリカの教育。著書に『日米のテスト戦略』『アメリカ公教育思想形成の史的研究』、共著に『現代学力テスト批判』、編著に『現代アメリカにおける教育アクセスメント行政の展開』『日本のティーチング・アシスタント制度』など。